



クリスマス休暇に Mexico で

ただ、後になって本当に預けたお金がカウントされているのかが不安になったため、その日の夜にオンラインで自分の口座を確認してみたところ、まったくカウントされていません。次の日にもう一度チェックしてもやはりカウントされていないのです。少額だったら諦めることも出来たのですが、\$500 といえれば日本円にして 6 万円という大金です。諦めることはできません。かといって直接銀行に問い合わせても、状況をうまく説明できるか、そして対処方法を聞き取れるか、と自分自身に問いかけてみると、答えはノーでした。それで、英語のクラスの先生に事情を説明することにしました。そこで初めて、アメリカの ATM では deposit をするときに紙幣を封筒に入れて投入しなければならない、ということを知ったのです。そうです、私は日本の ATM でしてきたように、当然のごとく封筒の投入口から \$20 紙幣 25 枚を裸のまま投入したのです。結局その先生がその銀行に電話をしてくれて、なんとかお金は deposit されましたが、こんなところも日本とは違うのか、と苦笑いする出来事でした。

他にも、床屋で髪型用語を知らなかったため short cut とお願いしたところ、日本昔話の漫画に出てくる童のようなオカっぱのような髪形にされたり、アパートの rent fee が自動引き落としされないことを知らず、支払い遅滞料金を取られたりと、日本の慣習とは違う、いくつかの思いもよらない経験をしてきました。どれもその当時は大変な思いをしましたが、今となってはいい思い出です。知らないことは知らないのだから、郷に従うことは出来ない、自分は外国人なのだから、それに気づいたときに体で覚えればいい。そのような体験で払う多少の犠牲も、異国の理解への小さなコストと考えて、これからもそういった経験を何度かできることを楽しみにしています。

☆

長年の夢であった留学が実現し、たくさんの経験をする事が出来た 2005 年、今年も残すところあと数日となりました。winter quarter は 1 月 3 日から開始されます。少し前までは 1 月 2 日から始まっていたようですが、新年早々から授業が始まるところも、「日本とは違う慣習なんだなあ」と実感させられています。fall quarter では生活に慣れるためにあまり難しい授業は取りませんでした。次の quarter は私の専攻である Economic Development の授業等、upper division の教科が中心となります。教科書に目を通してみた実感としては、予習に追われる毎日になりそうです。しっかりこなしていけるのか不安ですが、次の quarter の重点は勉強に置くことにしているので、何とか食らいついていこうと思います。勉強に追われるだろうこの quarter を切り抜けることが出来たとき、本当の意味で留学を survive することが出来た、と言えるでしょう。

「君達の留学での目標は、あっちに行って暮らしてくることじゃない。あっちに行って B 以上の成績を取って帰ってくることなんだよ。」

留学前に Academic skills for study abroad の授業でお世話になった松本先生が一番最初の授業で言われたことです。winter quarter も引き続き、その日に出来ることは妥協せずやり直し、その「目標」を達成しようと思います。



ハロウィーンに友人と



服部 祐也

はっとり ゆうや

早稲田大学政治経済学部 3 年

California Polytechnic State University  
San Luis Obispo 校 留学中

編集長から一言

服部君の 2 回目です。原文とおりです。

生真面目な性格を発揮して、落ち込んだり、涙を流したりと、充実した生活を送っているようです。

実は、服部君は、私が早稲田大学で持っているクラスの受講生の一人でした。クラスメート 30 名ほどが、全世界に散らばって、来年夏までの短期留学で学んでいます。